

第389回三木市議会定例会 市長 閉会あいさつ

令和7年9月30日

閉会に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

このたびの定例市議会におきましては、去る8月29日の開会以来33日間にわたり、三木市学校給食審議会の答申を受け、給食費を適正な額に改定する条例改正等の案件に加え、吉川地域における施設一体型小中一貫校の整備に向けた基本計画策定業務に係る債務負担行為を設定するほか、不登校児童生徒に対して多様な教育機会を確保するため、フリースクール等の民間施設の授業料などに対する支援や、本年7月の豪雨により被災した農地の早期の復旧など、緊急を要する経費についての補正予算、その他工事請負契約の締結に関する案件などについて、ご審議をいただきました。

議員の皆さまにおかれましては、終始ご精励を賜り、本会議並びに各常任委員会において、それぞれ慎重なるご審議を尽くされましたことに対しまして、敬意を表する次第です。

おかげをもちまして、このたびの市議会に提案いたしました議案につきましては、適切なるご決定を賜りましたことに、厚くお礼を申し上げます。

なお、「令和6年度各会計決算の認定」に係る議案につきましては、別途、決算特別委員会において、引き続き審査をいただくこととなりました。

委員の皆さまには、十分なる審査の上、認定をいただきますようお願い申し上げます。

さて、明日、10月1日から、デマンド型交通の運行を、三木南地区、別所地区、志染地区に拡大します。令和3年4月から吉川地区においてデマンド型交通「チョイソコみき」の運行を行っており、利用状況などから一定の効果を発揮していると判断し、このたび運行地域を拡大するものです。人口減少、運転手不足等の影響で、従来のまま地域の公共交通を維持することが難しくなっている状況において、移動手段の確保は喫緊の課題となっています。そのような中、自宅から買い物施設や公民館、医療機関などの所定の乗降場所まで、予約により利用ができるデマンド型交通は、地域の移動手段として重要です。

デマンド型交通は、鉄道や路線バスなど主に広域の移動を担う既存の交通手段では不足する部分を補い、日々の移動を支える「つなぎ役」として、高齢者をはじめ、誰もが安心して暮らせる地域づくりに寄与するものです。今後も、デマンド型交通を含め、地域住民の移動手段を確保してまいります。

また、今月9日には、本年1月に「兵庫の酒米「山田錦」生産システム」が日本農業遺産に認定されたことを記念し、三木山森林公園においてシンポジウムが開催されました。北播磨・六甲北部地域の山田錦生産者やその関係者約250人が参加し、山田錦の歴史や地域の特徴、栽培技術の発展などが紹介されたほか、「村米制度」による生産者と酒蔵が太い絆で結ばれた土壌を背景に、酒米の王者山田錦として評価されてきたことなどが紹介され、高品質な酒米を生産し続けてきた地域の「誇り」と酒蔵などが求める品質を保ってきた「自信」を再認識していただく機会となりました。日本農業遺産の認定により、日本一の「酒米山田錦」のさらなるブランド力の向上につなげていくとともに、江戸時代から酒米の産地として培ってきたところに、明治時代から酒蔵との特別な関係「村米制度」ができ、そこに「酒米山田錦」が栽培されるという「奇跡の産地」を今後とも

継承できるよう支援してまいります。

さらに、今月13日から15日まで、全国から選抜された中学生、高校生のゴルファーが参加する「全国高校生強化合宿兼選考会・全国中学生 High Quality 教育合宿」が開催されました。将来の日本ゴルフ界を担うジュニアゴルファー32人が本市に集まり、プロトレーナーから指導を受け、同年代のゴルファー同士、お互いに刺激を受けながら、技術を磨きました。加えて、今回は三木市の地域クラブ「みきティブ」に通う生徒が合宿の一部プログラムに初めて参加し、全国トップレベルの選手たちと触れ合う貴重な機会となりました。このように、ゴルフのまち三木の知名度向上に向け、取り組んでいるところです。

このほか、三木金物に関しても、7月には、大阪・関西万博において三木金物のシンボルである「金物鷲」を展示し、世界へPRしました。11月1日、2日には、市内外から多くの方々が訪れるイベント、「三木金物まつり2025」を開催します。以上のように、三木市が誇る地域資源の魅力を広く発信し、ブランド力を向上させ、市の活性化につなげてまいります。

朝夕にようやく秋の気配を感じるようになり、昼夜の寒暖差

が大きい季節となってまいりました。

議員の皆さまにおかれましても、くれぐれも健康にはご留意
いただき、引き続き、市政の発展のためにご活躍くださいます
ようお願いを申し上げ、閉会のあいさつといたします。

ありがとうございました。